

日本鉄鋼協会記事

研究委員会

第6回委員会 開催日：1月17日。出席者：盛副会長、不破委員長、ほか16名。

1. 特定基礎研究会、運営委員会について
運営委員会構成案を事務局より説明し、承認された。
2. 鉄鋼基礎共同研究会・新規テーマ案
各委員より提案されたテーマ案45件からどのようにしてテーマ案を絞るか検討した。
まず提案理由を出席委員が説明し、次に精練、材料関係に分け、重複するものあるいは含まれるものを整理統合して、それぞれのテーマ案に順位を付けることとした。これらの作業を5月までにを行い次の基共研、運営委員会に鉄鋼協会案を提出する。
3. 研究所視察団報告書提言について
提言を実現するために小委員会を作り検討を進めることとした。

編集委員会

第12回和文会誌分科会 開催日：2月3日。出席者：長嶋主査、ほか16名。

1. 14件の論文審査報告がなされ、修正依頼1件、掲載決定11件であった。
2. 「鉄と鋼」第64年第8号(7月号)に、論文13件掲載決定した。

第12回欧文会誌分科会 開催日：2月7日。出席者：中村幹事、ほか2名。

1. 9件の論文につき審査報告がなされ、掲載可3件、照会后掲載可4件、修正依頼2件であった。
2. 「鉄と鋼」64年6号アブストラクトより2件の研究論文、及び「鉄と鋼」以外の国内誌より1件の研究論文を勧誘することになった。

編集運営委員会

依論文賞選考小委員会 開催日：2月17日。出席者：長嶋晋一、ほか13名。

1. 昭和53年度依論文賞候補論文31件のうち慎重な審査により下記5件が決定された。

記

①「高炉でのスラグ、鉄鉄間へのSi、MnおよびSの分配比による炉内下部領域の状態の判定」樋谷暢男・田口整司・高田至康・岡部俠児(川鉄技研)鉄と鋼, Vol. 63 No. 12

②「逆V偏析の生成条件について」鈴木是明・宮本剛汎(日鋼室蘭研)鉄と鋼, Vol. 63 No. 1

③「ESR操業中のスラグとメタルプール中の温度および電位分布の測定と発熱量分布」川上正博*・永田和宏*・山村 稔**・坂田直起**・宮下芳雄**・後藤和宏*(* 東工大, ** 鋼管技研)鉄と鋼, Vol. 63 No. 13

④「自動車排気ガス中におけるステンレス鋼の高温腐食挙動」門 智*・山崎桓友*・山中幹雄*・吉田耕太郎*・矢部克彦**・小林 尚**(* 新日鉄製品研, ** 新日鉄

基礎研)鉄と鋼, Vol. 63 No. 5

⑤「Development of Continuously Annealed High Strength Cold Rolled Sheet Steels」荒木健治・福中司郎・内田国木(鋼管技研)Trans. ISIJ, Vol. 17 No. 12

標準化委員会

第59回特殊鋼分科会 開催日：2月2日。出席者：石川主査、ほか11名。

1. 焼入性を考慮した構造用鋼(H鋼)
H鋼の最終改正原案及び解説案について検討し、議決した。
2. 合金鋼のみがき棒鋼
合金鋼以外の特殊用途鋼をみがき棒鋼規格に含めた場合の問題点について検討した。

第60回鋼管分科会 開催日：2月2日。出席者：丸岡主査、ほか14名。

1. STBAのERW
STBAに0.5Mo, 1Cr-0.5Moの電気抵抗溶接管を追加することになり条文を検討した。
2. 配管用アーク溶接ステンレス鋼管
溶加材を使用した大径アーク溶接管を現行の配管用ステンレス鋼管とは別規格にすることにし、規格内容の骨子について検討した。

第3回JIS鋼管規格改正原案作成分科会

開催日：1月19日。出席者：田中主査、ほか25名。

1. SGP
水圧代替NDIは注文者の指定によることに改めた。
2. STB
使用者側の要望によりSTB 33を復活させることにした。
3. STBA
1Cr-0.5Mo鋼までに電気抵抗溶接鋼管を認めるかどうか長時間討議された結果、条件付でERWを認めることとなり、次回条文の審議を行うことにした。
4. ポリエチレン被覆鋼管
機械継手との関連からプラス側許容差の規定が必要かどうか、また耐候性試験が規定できるかどうかが宿題となった。

第1回機械試験方法分科会 開催日：1月26日。出席者：川田主査、ほか20名。

1. WG会議報告
WG1(自動化引張試験)WG2(伸び計)WG3(衝撃基準片)各WGの進捗状況が報告された。
2. TC 164/SC1 & SC3 国際会議報告
12月5~8日開催の第1回国際会議報告がなされた。SC1では比例試験片とそれ以外とを区分する記号につ

いて長時間論議され、また引張速度は2段階設けることになった。なお今後試験機の検査、高温引張、クリープ試験圧縮試験を審議する。SC3ではブリネル硬さ試験の討論に終始した。

3. 微小硬さ原案作成分科会の構成

微小硬さ試験機原案作成メンバーを考慮の上中立者7名、材料側7名、使用者側5名、試験機4名、基準片側1名で構成することにした。

ク リ ー プ 委 員 会

第3回高温クリープ疲労試験分科会 開催日: 1月31日。出席者: 平(兼)主査, ほか 29名。

次のように講演並に討論ののち審議が行われた。

1. 講 演 (2題)

「ASMEの高温設計規格における疲労解析法について」(神鋼・豊田委員)

「鋸歯状三角ひずみ波形の高温低サイクル疲労と熱疲労の類似性について」(京大・藤野高温熱疲労試験分科会幹事)

2. 審議事項

2.1 ひずみ範囲分割法による高温疲労試験結果の整理と熱疲労およびひずみ保持を有する高温低サイクル疲労の寿命推定(分科会活動方針案)について。

2.2 昭和53年度重要技術開発費補助金交付申請書(案)の試験研究計画書について。

これについては、急いで当分科会参加会社に分担金(1/2)負担による参加の有無をアンケートにより求めることとなった。

第19回データシート部会 開催日: 2月7日。田中部会長, ほか 13名。

1. 分科会報告

高温引張データシート分科会から、高温引張強さ、高温耐力データシート作成を迅速強化するため、現場の高

温引張試験材を動員する強化策を立案中との報告があった。

3. 新規テーマ

造船用鋼材、構造用高張力鋼、ニッケル鋼を対象とした材料の破壊靱性値のデータシートの作成が提案された。破壊靱性値としてどの試験を選定するか、データの収集が可能かなどについて今後検討を進める。

特 定 基 礎 研 究 会

第5回スラグの有効利用に関する基礎研究部会

開催日: 1月30日。出席者: 松下部会長, ほか 17名。

本部会は昭和52年度の最終部会であり、下記議題を取り扱った。

1. 昭和53年度研究予算について

2. 本年度の研究経過報告、並びに来年度の研究方針について

3. 昭和53年度部会スケジュールについて

特に2については、大学側委員の計画に対して、企業側委員の意見が反映されるように討議を進めた。

材 料 研 究 委 員 会

第27回委員会 開催日: 1月17日。出席者: 金沢委員長, ほか 14名。

会議に先だつて大同特殊鋼技術研究所の見学を行った。会議は以下のように進められた。

1. 各委員の実験結果の解析

(a) 各委員の研究発表

(b) GROSSMANの式で交互作用を考えない場合の焼入性評価の検討

2. 各委員の独自研究テーマの発表

データの解析について各委員会検討し、次回発表することとなった。